

情報通信審議会 情報通信技術分科会
新世代モバイル通信システム委員会 上空利用検討作業班（第9回）

－ 議事概要 －

1 日時

令和4年10月31日（月）15:00～15:40

2 場所

Web会議で開催

3 出席者（敬称略）

（1）構成員

山尾 泰（主任）、土屋 武司（主任代理）、秋本 修、榮長 悟、
大石 雅寿、大島 直到、小竹 信幸、加藤 康博（代理：佐藤 拓也）、
小鯛 航太、小松 孝明、坂本 修、佐野 弘和、田中 和也、津持 純、
中村 光則、南 淳一、森本 聰、山下 史洋、和田 昭久

（2）オブザーバ

宇田 香織、小熊 弘明、渡邊 敬（代理：平林 孝太）、松本 博明

（3）関係者

古川 憲志（ドコモ・テクノロジ株式会社）

（4）事務局（総務省）

中村 裕治（移動通信課 課長）、入江 晃史（移動通信課 企画官）、
赤川 達也（移動通信課 課長補佐）、中川 隆人（移動通信課 第二技術係長）
上原 史裕（移動通信課 第二技術係員）

4 議題

（1）委員会報告書案について

事務局より、概要資料（資料9-1）に沿って委員会報告書案について説明がなされ、
以下の質疑応答がなされた。その後、本報告書案のとおり取りまとめる方向性について、
了承された。

大石構成員：電波天文への干渉を避けるために1.5GHz帯の上空利用はやめるという結論
で安心している。

2点コメントがある。1点目は、20ページの「被干渉業務受信周波数帯」については、例えば電波天文は「～1427MHz」と書いてあるが、「1400MHz～1427MHz」と周波数帯の範囲をしっかりと書いてほしい。

2点目は、電波天文との共用検討のやり方について。電波天文の受信設備は感度が高く、電波望遠鏡のすぐ近くで携帯電話を運用すると大きな干渉が生じることから、携帯電話側が最小離隔距離を維持しながら運用する必要がある。今回、電波天文の受信設備の周りに携帯電話があるようなモデルで干渉量を計算しているが、今後、電波天文との共用検討をする際には、最小離隔距離を維持する前提で検討をすべき。この点については、議事録に残しておいてほしい。

- 事務局 : 承知した。
- 津持構成員 : 概要資料 17 ページに最大送信電力値 23dBm とあるが、12 ページにある諸元との関係如何。この数値はアンテナ利得によらない数値なのか。そうであればその旨記載した方が良いのではないか。
- 事務局 : 12 ページにあるとおり、端末の最大送信電力は 200mW (=23dBm) としている。分かりづらければ追記を検討する。
- 古川氏 : 事務局の理解のとおり。端末はオムニアンテナ（無指向性）であり、利得は 0dBi である。
- 佐野構成員 : 技術的条件の対象としては、ドローンとヘリコプター両方が含まれているのか。
- 事務局 : 技術的条件上では、搭載するモノの限定はしていない。150 メートル以上というユースケースでは両方を念頭に置いている。
- 山尾主任 : 搭載するモノについては、今後出てくるような、例えば空飛ぶクルマも含まれてくるという理解で良いか。
- 事務局 : おっしゃるとおり。

(2) その他

委員会報告書案については、11月7日（月）開催予定の新世代モバイルシステム委員会において報告することとなり、報告書案の最終的内容については山尾主任一任となった。これに伴い、事務局より、報告書案について意見等があれば、11月2日（水）12 時までに事務局まで提出するよう、連絡があった。

以上